ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

シートNO.

ボーリング名	B-1	調査位置				北　緯	36 ° 20 ’ 17.0000 ”
発注機関	栃木県栃木土木事務所			調査期間	2007-02-26 ～ 2007-02-26	東　経	139 ° 49 ’ 33.0000 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	43.25 m	角度	180° 上 下 90° 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 .00 °	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90° 0.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘進長	8.45 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1	42.20	1.05	1.05		盛土 (BS)	暗灰			最上部15cmは砕石。60cmまで径20～100mmの岩砕が混入するズリ砕石。以深はシルトとロームの混合土。木片が混入。含水大。		
	41.40	0.80	1.85		ローム (Lm)	茶褐		軟らかい	腐植物が混入。下部、軽石散在。含水量は多く、粘性が強い。		02/26 1.95 ▽
2	40.65	0.75	2.60		軽石 (Pm)	黄褐	非常に緩い		最下部は砂が多く混入し半固結状含水量が非常に多い。		
3	39.75	0.90	3.50		ローム (Lm)	淡茶褐		非常に軟らかい	腐植物が混入する。含水量は多く、粘性は中程度。		
4	38.55	1.20	4.70		砂質シルト (MS)	淡青灰			上部は微細砂の混入が多く、下部は有機質土状。腐植物が混入し、軽石片が散在する。含水量は多く、粘性は強い。		
5	37.75	0.80	5.50		砂混りシルト (M-S)	緑灰		非常に軟らかい	少量の細砂や腐植物を混入。含水量は多い。		
6	34.80	2.95	8.45		礫混り砂 (S-G)	緑灰	中ぐらい	硬い	層相は不均質である。細砂～中砂が主体。全体に粒径は不均一である。最上部はシルトが混入する。径5～20mmの亜円礫や亜角礫が散在する。局部的に礫の密集部がある。		

標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1			3	3
1.50	15	1	1	35	
2.15	1			1	0
2.75	60			60	
3.00	0			0	0
3.60	60			60	
4.15	1			1	0
4.75	60			60	
5.15	2	3	3	8	8
5.45				30	
6.15	9	9	13	31	31
6.45				30	
7.15	8	7	9	24	24
7.45				30	
8.15	10	10	12	32	32
8.45				30	

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
				02/26